村長室へようこそ ／ 東白川村長のメッセージ　平成 29 年８月

夏本番の８月は、村内各所で夏祭りが開催され、白川も鮎の友釣りで賑わい、村中に活気が満ち溢れる季節です。
しかし季節の移ろいは早く、暦では８月７日が「立秋」。
この日以降が「残暑」になるといわれており、盂蘭盆(うらぼん)が過ぎれば野山を渡る風に秋を感じるようになります。

先日、美しい村づくり委員会の皆さんと郡上市石徹白(いとしろ)地区を視察してまいりました。
人口 273 人、世帯数 113 戸、高齢化比率 50%、石徹白小学校全校児童数 6 名という地域で、大変厳しい現実があるわけですが、小水力発電による経済的自立を図る取り組みや地域づくり協議会が活発に活動しておられ、2007 年から 12 世帯 27 名が移住し、子供が 5 人誕生したとのことでした。
施設見学、地元の NPO の方や地域おこし協力隊員で定住した方々との意見交換も行うことができ、実り多い研修となりました。

「地方創生」が唱えられ、都市からの移住の潮流が生まれていると言われています。
先月の「日本で最も美しい村連合」の研修でも感じたところですが、これからの東白川の村づくりにおいて、人口対策は最優先の解決課題であることは言うまでもありません。
子育て支援や産業振興、住宅対策などの事業の目的は、どれもひとえに人口対策であるといえます。特に人口の社会増減といわれる転出を減らすこと、移住定住など転入を増やすことが重要です。出生数と死亡数の差である自然減が、大変厳しい状況であるからこそ尚更であると考えます。
至極当たり前のことを今更とお笑いになるかもしれませんが、この社会増減を考えるときに重要なことが盛んに議論されています。

国の「これからの移住・交流施策の在り方に関す検討会」がまとめた中間報告によると、今までよく言われてきた「定住人口」と「交流人口」のほかに、その地域や地域の人々と多様に関わる「関係人口」という概念の重要性が議論されたとあります。
この「関係人口」をもう少し詳しく説明すると
1）地域内にルーツがある方(うち近居)
2）地域内にルーツがある方(うち遠居)
3）過去の勤務や居住滞在など何らかの関わりがある方
4）行き来する方
の４分類になります。

中間報告では、今後の方向性としてこの「関係人口」との間に、様々なネットワークをつくること。地域住民との交流の機会を積極的に創出することなどが重要であるとし、この関係を築くキーワードが、それぞれの立場でのふるさとへの『想い』であるとしています。じつに共感できる考えであり、このふるさとへの『想い』を共有して、東白川村の伝統である米作りや茶業、東濃ヒノキに関する事業、郷土歌舞伎や五社ある各神社の伝統的な行事、文化など、そしてなによりもこれらの背景となる豊かな自然を行政と住民の皆様が力を合わせて次世代に守り伝えることが、村づくりの基本姿勢であると確信しております。

７月 5、6 日に発生した「九州北部豪雨」につきましては、被災地の皆様に心からのお見舞いを申し上げます。
被災地の一つであります福岡県東峰村は「日本で最も美しい村」連合の仲間でもあり、できる限りの支援をしたいと思いますので、災害義援共同募金へのご協力を切にお願い申し上げます。

平成 29 年８月

東白川村長　今　井　俊　郎